

## 康生周辺地区まちづくり交付金評価委員会 議事要旨

日 時：平成 21 年 11 月 16 日（金）13：30～16：30

場 所：図書館交流プラザ 3 階 303 会議室

出席者：松本壮一郎委員長、浅岡林平委員、白井宏幸委員、長坂宏子委員、服部良男委員、事務局（岡崎市企画課、道路建設課）

傍聴者：2 名

### 1．辞令交付

### 2．現地視察

地域交流センター（図書館交流プラザ）市道元能見康生通西線、地域交流センター広場、伊賀川水辺空間、市道岡崎郵便局北線などを視察

### 3．「事後評価制度」と「康生周辺地区都市再生整備計画」の説明

#### (1) まちづくり交付金の事後評価の仕組み

##### 説明

〔事務局〕

- ・資料 1「康生周辺地区におけるまちづくりのあらまし」について、パワーポイント（スライド 3～4）を用いて説明。

#### (2) 康生周辺地区都市再生整備計画の内容

##### 説明

〔事務局〕

- ・資料 1「康生周辺地区におけるまちづくりのあらまし」について、パワーポイント（スライド 5～14）を用いて説明。

##### 質疑応答

〔服部委員〕

- ・康生周辺地区都市再生整備計画に挙げられた全事業費はどのくらいか。また、まちづくり交付金の交付額はどのくらいか。

〔事務局〕

- ・交付対象事業費は約 76 億円であり、交付額は約 22.4 億円で国費率は 29.3% である。

〔服部委員〕

- ・目標を定量化する指標の達成・未達成は何に影響するのか。

〔事務局〕

- ・目標が達成したものについては効果を活用する今後の方策を、達成できなかったものについては改善の方針を、それぞれ事後評価シートに記載している。これらの内容を踏まえて、今後の康生周辺地区及び他地区のまちづくりに役立てていくこととなる。

〔白井委員〕

- ・目標を定量化する指標は市が設定したものなのか。

〔事務局〕

- ・既存の統計データなど用いて、明確に示すことができる指標を市で設定している。

〔浅岡委員〕

- ・整備方針には、「歴史的環境を活かした」と記載しているが、図書館交流プラザは、現代的なデザインの建築物である。設計の審査の過程で、そのようになった理由はあるのか。

〔事務局〕

- ・図書館交流プラザの設計については、平成 16,17 年度に市民検討ワークショップを開催して、市民と設計者、市の 3 者で協議を行い、設計者が提案する設計内容に市民の意見や要望等を反映したものとなっている。市民からは、日本風に、という要望は少なかったが、岡崎城の白壁と瓦の黒などを意識した色彩、外堀の記憶を取り入れた通路、ビスタラインなどに歴史的環境が反映されている。

〔長坂委員〕

- ・ジャズストリートや図書館を中心として、にぎわいが向上している。

〔松本委員長〕

- ・中心市街地の活性化に対して、商店街などに対する直接的な事業がないが、その理由はなぜか。また、康生周辺地区は、観光資源を多く持つ地区であるが、観光の目玉やシンボルづくりという視点がない。どのような事業が観光の充実化に寄与しているのか。

〔事務局〕

- ・岡崎城址公園整備や家康館展示改装事業などは、まさに観光資源に磨きをかけるような事業である。加えて、文化的な交流の促進という面では、図書館交流プラザも同様である。一方で、商業の活性化への対応については立ち遅れている状況である。問題点については次の議事の中で説明したい。

#### 4. 「事後評価手続き」の審議

##### (1) 方法書の報告

###### 説明

〔事務局〕

- ・資料 2 「事後評価方法書」について、パワーポイント（スライド 15~17）を用いて説明。
- ・方法書の記載内容に従って事後評価を進めている。具体的な内容は個別の議事の中で報告したい。

##### (2) 成果の評価について意見聴取

###### 説明

〔事務局〕

- ・資料 3 「事後評価シート」について、パワーポイント（スライド 18~19）を用いて説明。

###### 審議

〔白井委員〕

- ・指標として小売年間商品販売額を挙げているが、図書館交流プラザができて通行人が増えれば、物が売れるようになるとは限らない。出店や退店数の増減、サービス系の事業所数などを指標にすべきである。

- ・家康館の展示改装事業を行った効果に対して、なぜ岡崎城入場者数を指標に設定しているのか。また、東隅櫓に関する事業が貢献しているのかも良く分からない。家康館の入館者数、駐車場の利用率などを指標に掲げた方が良い。

〔事務局〕

- ・図書館交流プラザの整備は、小売年間商品販売額などの商業の活性化がつながらなかったため、その他の数値指標を設定して、効果分析の補完を行った。図書館交流プラザとプロムナードや伊賀川水辺空間などの一体的な整備は、中心市街地の回遊性の向上には貢献したと考えている。岡崎城址公園の指標については、今後の整備を実施していく際の参考としたい。

〔服部委員〕

- ・指標に、バス乗降者数を用いた理由は何か。図書館交流プラザによる歩行者の増加とバス乗降者数の増加に因果関係があるのか。

〔事務局〕

- ・中心市街地への交通手段を考えると、鉄道、バス、タクシーなどが挙げられる。その中で、バスの利用度を高めたいと考えて設定した指標である。市民のバス利用率は5%程度で一定しており、康生周辺地区へのバス利用者が増えている一方で、郊外のバス利用者は減少しているのが現状である。

〔服部委員〕

- ・まちバスの利用者は高齢者のみとなっている。例えば、高齢者への魅力を高める機能がなければ、バス乗降者数との因果関係を測りにくいのではないか。

〔浅岡委員〕

- ・図書館交流プラザの向かい側の敷地にあった名鉄ホテルが撤退したところから康生周辺地区が傾き始めたと思う。その跡地であるマンションの敷地を今回のまちづくり交付金の事業地の一部として取り入れることは検討したのか。

〔事務局〕

- ・マンションがある敷地を事業計画地の一部とする計画はあった。費用面などの条件が合わず、交渉が成功しなかった。しかし、マンションの建設にあたっては、歩道の拡幅などの協力を受けている。

〔白井委員〕

- ・岡崎市のまちづくりの指標としては、今回の都市再生整備計画や事後評価で挙げられているもので十分とは言えない。定量的な指標、定性的な指標をあわせて考えていくべきである。例えば、図書館交流プラザのイベント利用回数、プロムナードの利用回数、新聞やインターネットなどで岡崎市がどのくらい話題になっているかなど、今後は岡崎市オリジナルの指標を設けてもらいたい。

### (3) 実施過程の評価について報告

#### 説明

〔事務局〕

- ・資料3「事後評価シート」について、パワーポイント（スライド20~22）を用いて説明。

#### 審議

〔服部委員〕

・「りぶらサポータークラブ」は現在何名が登録しているのか。

〔事務局〕

・現在、50名ほどの登録があり、年会費2,000円を支払っている。今後も登録人数を増やしていきたい。

〔服部委員〕

・年齢層はどうか。

〔事務局〕

・男性は定年退職した方、女性は子育てを終えられた方など、年配の方が多い。最近では、大学生の参加も見られる。

〔白井委員〕

・持続的なまちづくり体制の構築に関して、図書館交流プラザの管理運営主体となるNPOを育成すると書かれているが、この管理運営というのは、図書館交流プラザの指定管理者となることを意味しているのか。

〔事務局〕

・5年後を目標に図書館交流プラザを指定管理者制度に移行していきたいと考えているが、まだ議論や検討が必要である。施設計画の検討段階から市民の運営参画が目標に掲げられており、図書館交流プラザ内の各ソフト事業の運営等にサポータークラブが関わることは十分可能と考えている。

#### (4) 効果発現要因の整理について意見聴取

説明

〔事務局〕

・資料3「事後評価シート」について、パワーポイント（スライド23~27）を用いて説明。

#### (5) 事後評価原案の公表について報告

説明

〔事務局〕

・事後評価原案を公表し、市民からの意見はなかった。

〔松本委員長〕

・以上、(1)~(5)の「事後評価手続き」について適切に行われ、妥当なものと評価してよろしいか。

〔全委員〕

・了承した。

### 5. 「今後のまちづくり方策」の審議

#### (1) 今後のまちづくり方策について意見聴取

説明

〔事務局〕

- ・資料3「事後評価シート」について、パワーポイント（スライド28~30）を用いて説明。

## 審議

### 〔白井委員〕

- ・まちづくりは「しあわせづくり」という視点が大切である。
- ・協働のあり方が変わってきており、産官学民によるまちづくりには、まちの経営から協働の観点を持つ必要がある。
- ・プロムナードの活用について、行政の所管が分かれている中で、皆さん協力的に関わっており、大変うまくいっているところである。もっと協働を推進するためには計画段階からパートナーシップで検討していけるとよい。
- ・指標の事項でも述べたが、商業活性化の定義が曖昧である。商業の活性化は、小売の売り上げだけでなく、文化・まちづくりの視点からの時間消費、サービス消費と関連づけるなどして、その地域ごとにしっかり定義していかなければならない。

### 〔服部委員〕

- ・今回の事業を見ていると、ハード事業と関連事業の結びつきが弱い。岡崎の地域力の弱さでもあるが、補助金をもらっても地域内の横のつながりがないことが課題である。
- ・整備方針の中にも「文化」という言葉が出てくるが、「文化」と「教育」とは一体にならないと生きてこないものである。図書館と大学や専門学校との連携、大学のセミナーの実施など、生涯学習や教育との結びつきを深め、中心市街地への回帰を進めてもらいたい。
- ・さらに、女性の力、取り組みが必要である。女性が環境や文化を形成していくという視点をまちに取り入れていくことが大切である。

### 〔長坂委員〕

- ・図書館交流プラザは、充実した施設になっており、普段利用している分には非常に満足しているが、大きな会議などがある場合には、駐車場が不足することが課題である。
- ・岡崎城址公園の家康館や東隅櫓は、観光資源として大いに活かされるべきものである。岡崎城をPRする情報発信がもっと必要である。
- ・まちバスの利用については、高齢者しか利用していないという意見もあるようだが、路線も充実してきており、子どもがよく利用しているのを見かける。
- ・商業の活性化については、今後大型店舗が撤退する中、地域としての売り上げを伸ばしていくというのは非常に難しいことだと感じる。どのような活性化の道があるのかについて検討が必要である。

### 〔浅岡委員〕

- ・事後評価シートを見ていると、今後のまちづくりについて、バスルートの利便性向上など、よい方策を考えていると思う。具体的に進めていくためには、庁内の情報交換、連携が必要である。まちづくりのよいテストケースとして、事業の成果を発信することが必要である。
- ・また、今後岡崎らしい歴史的魅力の向上を図るためには、観光客の増加などを意識した歴史・文化の育成を図ってってもらいたい。

### 〔松本委員長〕

- ・先ほどの議論の中で、図書館交流プラザを白と黒を基調にした色彩にすることで、岡崎城との歴史性を意識したという話があった。今後、康生周辺地区の他の施設などを整備していく際にも、同様の基準で、歴史性に配慮したデザインを増やしていくことが大切である。

- ・また、文化の要素を増やして街を活性化させていくためには、美術館のサテライトを街なかにつくっていくことも考えられる。
- ・図書館交流プラザを名実ともに中心市街地の核として考えるならば、今後は伊賀川の対岸の整備を行ってはどうかと考えている。現在の図書館交流プラザは端にあるというイメージで、中心性に欠けているように感じる。そのことに加えて、図書館交流プラザは施設が立派すぎて、その他の市街地とのバランスが取れていない。植栽などからでもよいので、街並みに連続性を感じさせていくことが必要である。
- ・また、図書館交流プラザの外部施設や他施設との連続性、魅力を促進していかなければ、やはり施設の中心性としては、乏しいものになってしまう。
- ・さらに、文化施設の誘致なども行い、図書館交流プラザと地域とが一体となって市民活動、学習活動の場を提供し、街をにぎやかにすることが大切である。

〔服部委員〕

- ・76億円かけた取り組みがゼロに戻らないよう、今後も活かし続けてほしい。

〔事務局〕

- ・事後評価のP D C Aの流れを活かして、次につなげていきたいと考えている。

〔松本委員長〕

- ・「今後のまちづくり方策」について、適切に方策が検討されていると評価してよろしいか。

〔全委員〕

- ・了承した。

## 6．評価委員会後のスケジュールについて説明

### 説明

〔事務局〕

- ・パワーポイント（スライド31~32）を用いて説明。
- ・評価委員会でいただいた内容を、事後評価シートに追記していく。

### 質疑

〔松本委員長〕

- ・最終的な事後評価の内容を各委員に渡すことは可能か。

〔事務局〕

- ・最終版の事後評価シートを各評価委員に配布させていただく。

以上